

## 点検計画表の継続的見直し（再構築）に係る確認結果

（第5回立入調査時確認事項：平成22年12月27日）

- ・9月初旬から実施されていた「点検計画」「点検計画表」を見直し後のフォーマットに移行する手順のモックアップ〔実物の「点検計画」「点検計画表」のコピーファイルを用いて行うフォーマット移行手順のテスト〕が完了し、点検計画・計画表見直しワーキングの第7回（10/20開催）、第8回（10/29開催）の打合せで、モックアップ結果を反映した「見直し作業方針書及び手順書」の内容が最終確認されているとの説明を受けた。
- ・見直し後のフォーマットは、点検計画と点検計画表の統合、部位単位ではなく保全タスク単位での点検の計画・実績管理、標準工事仕様書の採用など、前回立入調査時と基本的に変更はないとの説明を受けた。
- ・今後のスケジュールについては再調整中であり、その理由は、点検計画・計画表を見直し後のフォーマットへ移行する際や、そのデータをEAMへ導入する際の誤りを防ぐことが重要と考え、このチェックプロセスを慎重に検討しているためとの説明を受けた。
- ・また、新たな点検計画表や標準工事仕様書の運用開始後、実際にこれらを使って工事の計画・発注・検収等を行う者が迷わないよう、色々なケースを想定したシミュレーションを行い、保守管理プロセスを明確にすることについても、今後の検討課題として取り組むこととしているとの説明を受けた。
- ・見直し後の運用に関する検討（シミュレーション）の一例として、一部の部品の取替が不能であった場合の取扱いについては、表の構成上、点検計画表にどの部位の取替が未済かは示されないが、そのような機器については不適合管理を行い、計画どおりの点検が完了した機器とは識別して管理することが想定されるとの説明を受けた。
- ・なお、標準工事仕様書には、現行の点検計画表に記載されている部位ごとの詳細な点検内容（作業内容）が引き継がれることになるが、項目として保全内容の欄が追加されることで、どの保全内容（分解点検、外観点検等）の時にどの作業を実施するかが一つ一つ結びつけられており、従来と比べれば確認のしやすい構成になっているとの印象を受けた。

-----  
（第4回立入調査時確認事項：平成22年9月15日）

- ・点検計画・計画表見直しワーキングの打合せが7月13日からこれまでに6回開催され、「現場が使いやすい（管理しやすい）点検計画表」への見直しの方向性を決定し、戦略会議で確認されるのを待っている状態との説明を受けた。
- ・点検計画・計画表の見直し作業についてワーキングとして決定した主な内容は、
  - 現状の「点検計画」と「点検計画表」を一体化する。
  - 予定・実績管理は点検部位ごとにはなく、保全タスクごとに行うこととする（現状の「点検計画」をベースに再構築）。
  - 現状の「点検計画表」はより詳細な作業内容を管理するための「標準工事仕様書」にする。

- 定期事業者検査の予定・実績管理は、保全（通常の保守点検）の予定・実績管理とは別項目とする。
  - 見直し版では至近の点検実績以降の実績、予定を管理する。
  - EAM（統合型保全システム）の点検計画管理機能を2号機第17回定期検査の立案時から使用する。
- ・スケジュールについては、見直し作業の手順を9月末までに決定し、各設備主管課が行う実際の見直し作業は、「点検計画・計画表見直しワーキング活動計画書」で示した計画どおり、10月から開始し、今年度中に2号機の見直し作業を完了させる計画となっていることを確認した。
  - ・現在は、見直しの作業手順決定のためのモックアップを9月初旬から実施しているところとの説明を受けた。
  - ・具体的には、ワーキングで検討した詳細な作業手順により、現状の「点検計画」「点検計画表」を見直し版に変更することができるか、設備主管課に所属するワーキングのメンバーが自分が担当する機器を対象に試行し、問題点の抽出を行うこととしているとの説明を受けた。
  - ・モックアップの結果、これまでに「弁・計器等、数の多い機器の見直し作業が、本手順では効率的ではない」といった問題点が抽出されているが、作業が実施できないといった意見は出ていないとの説明を受けた。
  - ・県・市からは、「実際の点検の現場では、計画した点検の一部だけ実施できないなど、いろいろなことが起こり得るのではないか。設備主管課のメンバー、担当者などからどのような事例があるかの情報を求めて、あらかじめ点検計画・計画表への反映方法等を検討しておくとのよいのでは。」という提案を行った。

（第3回立入調査時確認事項：平成22年8月6日）

- ・点検計画表の継続的見直しのうち、「点検計画表」をより適切に管理できるものに見直すことについては、点検計画表検討ワーキンググループ（名称は「点検計画・計画表見直しワーキング」に変更予定。以下、ワーキンググループを「WG」と略す。）で検討を行っているとの説明を受けた。
- ・点検計画表検討WGは業務プロセス改善WGのサブグループに位置付けられており、7/9に開催された第2回原子力部門戦略会議準備会において、重要課題「保守管理不備への再発防止対策の確実な実施」に対応するため、既に発電所内で活動をしていた両WGを戦略会議のWGに組み込むことにしたものであることを確認した。
- ・点検計画表検討WGでは、点検計画表を現場で実際に用いる若手所員が専従の中心メンバーとなり、「より現場の実務に即したものとするために点検計画・計画表に記載すべき情報は何か」という視点からフォーマットの検討を行っているとの説明を受けた。
- ・点検計画表検討WGの活動については、9月末までを目処としており、その後WGの検討した方針・手順・工程にそって個々の点検計画・計画表の見直し作業が行われる計画だが、見直し作業を適宜フォローする中で、必要に応じWGの活動を再開する場合もあるとの説明を受けた。